

日本通運のグリーン物流について

1. 環境負荷低減の視点と取り組み基本方針
2. 環境負荷低減取り組みの具体例
3. 「見える化」の意義、具体例

0

1. 環境負荷低減の視点と取り組み基本方針

環境負荷低減の視点

CO₂排出量の削減
(地球温暖化対応)

NO_x・PM排出量の削減
(大気汚染対応)

資源使用量削減
(資源有効活用)

廃棄物削減と適正処理
(地域環境保全)

その他
(オゾン層、騒音・振動等)

取り組み基本方針

◎物流業務に直接的に関わる対応

- A. 物流の効率化による改善
- B. 車両など輸送手段に関わる改善
- C. 資器材などの改善
- D. 環境マネジメントによる適正化
- E. 建物に関わる省資源化

◎物流業務に間接的に関わる対応

- A. 循環型社会構築への取り組み
- B. 社会貢献活動(環境分野)
- C. 環境経営に関する情報発信

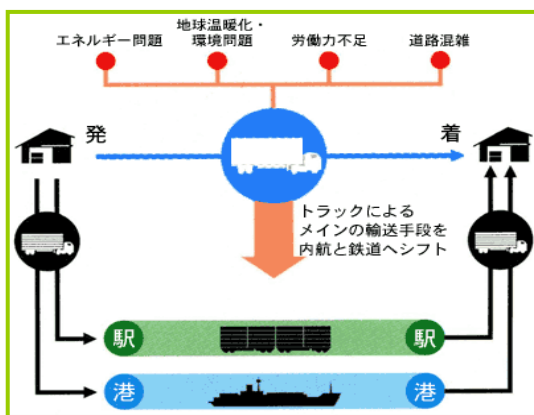
備考 1. CO₂(シーオーツーと読む。二酸化炭素)⇒地球温暖化を引き起こす温室効果ガスの一種。
2. NO_x(ノックスと読む。窒素酸化物)⇒自動車や工場の化石燃料の燃焼で発生するガス。喘息や気管支炎など健康被害誘発の可能性。
3. PM(ピーエムと読む。パーティキュレートマター)⇒軽油を使用するディーゼル車から排出。気管支炎や発がんなど健康被害誘発の可能性。

2. 環境負荷低減取り組みの具体例(物流業)

大区分	中区分	小区分
物流業務に直接 的に関わる対応	物流の効率化 による改善	①モーダルシフトの推進 ②共同輸送、共同配送 ③拠点の集約④車両の大型化 ⑤積載率の向上
	車両など輸送手段 に関わる改善	①環境配慮車両の導入 ②エコドライブの推進
	資器材などの改善	①梱包資材の省資源化 ②荷役機器の省資源化
	環境マネジメント による適正化	①ISO14001 ②グリーン経営認証
	建物に関わる省資源化	①省エネルギー化(電気使用量削減、 自然エネルギーの活用、緑化)
物流業務に間接 的に関わる対応	循環型社会構築 への取り組み	①3Rの推進 ②廃棄物処理の適正化 ③グリーン購入
	社会貢献活動 (環境分野)	①次世代の環境教育への協賛 ②緑化事業の取り組み ③地域社会への貢献
	環境経営に関する 情報発信	①CO2総排出量削減目標 ②外部機関評価 ③CSR報告書

①モーダルシフトの推進

(CSR報告書2009:13頁参照)



<それぞれの特性>

・トラック

- 出荷時間に制約がない
- 目的地まで直行できる
- 少量貨物の輸送が可能

・鉄道(対トラック)

- 大量・長距離輸送に優れる
- 船舶よりさらにCO₂排出量が少ない
- 高速性・定時性に優れる

・船舶(対トラック)

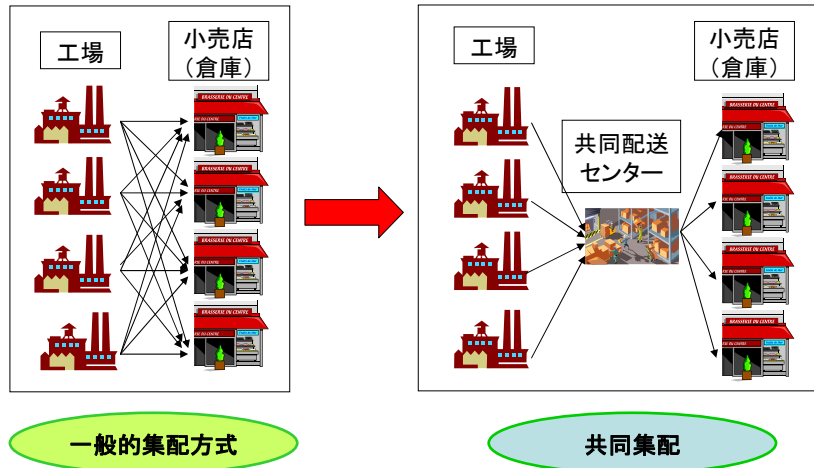
- 鉄道よりさらに大量・長距離輸送に優れる
- CO₂排出量が少ない
- 荷傷みが少ない

* 輸送条件により特性は異なる



②共同輸送・共同集配・共同運行 (CSR報告書2009:16頁参照)

* 同業種による共同物流、異業種による共同物流



4

③環境配慮車両の導入

(CSR報告書2009:18頁参照)



天然ガス(CNG)車

天然ガス車	430
ハイブリッド車	539
LPG車	1,191
超低PM車(大型)	475
新長期規制車	833
計	3,468

(2009年3月 現在:台数)



LPG 車



ハイブリッド車

5

④エコドライブの推進

(CSR報告書2009:19頁参照)

◇エコドライブ教育(階層別)

・年間受講者数 約 1,200名



当社伊豆研修センター ドライバー研修会風景

◇エコドライブ10のすすめ

- ①暖気運転はほどほどに
- ②駐車中はエンジン停止
- ③急発進・急加速の禁止
- ④速度はひかえめに
- ⑤等速運転の励行
- ⑥急ブレーキの必要のない運転を
- ⑦タイヤの空気圧に注意
- ⑧余分な物は車に積みっぱなしにしない
- ⑨エアコンの使用もひかえめに
- ⑩ギア的選擇は適切に

◇デジタル式タコメーター導入

2005年3月
全車装着
完了



※キーロープを腰につけ、車両を離れる際は必ずキーを抜く

6

⑤梱包資材の省資源化

(CSR報告書2009:20頁参照)

* えころじこんぼ(ネット付毛布、ハイパット、レンタルハンガーボックス、食器トランクなど引越用反復資材の利用)
⇒ ダンボールなどの使用量を削減

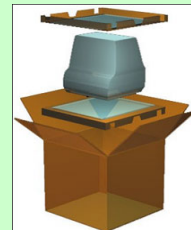


えころじこんぼ利用により削減した想定CO2排出量(2008年度)

・CO2削減量 5,438 t ・CO2削減率 32% (CSR報告書2009:25頁参照)

* パソコンポ(IT機器運送用の梱包資材で、荷物への振動や衝撃を最小限に抑える。特殊フィルムで製品を挟み込む仕組みで、反復利用可能)

⇒ 緩衝材(エアキャップ、発泡スチロールなど)などの使用量削減



7

⑥環境に関する社会貢献活動

(1)環境教育への協賛(CSR報告書2009:40頁参照)

環境教育用教材“kids X change”

1. 国連ユネスコ、UNEP(環境計画)が制作した青少年向け環境啓蒙書を基に小学校高学年向け教材(kids X change)を制作
2. 08年2月小学校73校へ配布
3. 08年7月文部科学省と共催で公開授業
4. 08年12月文部科学省国際会議にて発表
5. 09年3月まで授業実施33校、2,423人



8

⑥環境に関する社会貢献活動

(2)緑化事業の取り組み(CSR報告書2009:41頁参照)

「日通の森」における森林育成活動

- ・山形県西置賜郡飯豊町(最上川源流)に70ha
- ・鳥取県日野郡日南町に35ha
- ・社員と家族のボランティア活動による間伐、草刈、植林、植菌
- ・年3回のべ126名参加(2008年度)



9

3. 「見える化」の意義と具体例

A. 「見える化」の意義

* 企業の商品に係る説明責任



* お客様に商品をご理解いただく



* お客様へ商品に関する安心・信頼を提供

B. 「見える化」の例

(1) 数値化

例1: 内航船輸送でのご請求書にCO₂排出量などの表示

例2: 国内引越作業でのお見積書にCO₂排出量などの表示

例3: CO₂クレジット付き国際航空貨物「エコツウ[ECO2]」販売

(2) 再資源化商品の具現化と再資源化商品の自社利用

例4: 海外引越の使用済み梱包資材の再資源化と自社利用

例5: 国内作業の使用済み梱包資材の再資源化と自社利用¹⁰

例4

海外引越の使用済み梱包資材の再資源化と自社利用

* お客様の海外引越で発生した梱包資材の徹底した分別 と 自社使用資器材への再資源化

[その1]

・使用済みプチプチ(緩衝材)
・使用済みビニール



・再生プチプチ
・再生ビニール袋

[その2]

・発泡スチロール



・再生クリアファイル